

科目名	情報と職業 I Information and Occupation I						
科目担当者	岡 夏樹 OKA Natsuki						
単位数	2	配当年次	3年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(6)
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報技術が社会やビジネスをどう支えていて、どう変えてきたか、今後どう変えていくかを学ぶ。教員による解説に加えて、受講者が交代で解説役を担当する。</li> <li>● 学んだ技術動向が、自分たちの日常生活や将来の職業生活、これからの社会にどのような影響を与えるかを討議する。</li> <li>● その将来像の中で自分が何をするか、そのために今何をすべきかを考える。</li> </ul>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報技術が社会やビジネスをどう支えていて、どう変えてきたか、今後どう変えていくかを理解する。</li> <li>② それを他の人に説明することができる。</li> <li>③ 得られた知識に基づいて社会の将来像を討議・想像・創造する力を身に付ける。</li> <li>④ 将来に向けて自分が今何をすべきかの目標が定まる。</li> </ol>						
授業計画・内容	1	イントロダクション					
	2	情報社会と情報システム (1): 社会基盤としての情報システム					
	3	情報社会と情報システム (2): 行政の情報システム					
	4	深層学習の最新の技術動向 (1): 社会基盤に関連する技術を取り上げる					
	5	情報化によるビジネス環境の変化 (1): コンビニエンスストアにおける情報の活用事例					
	6	情報化によるビジネス環境の変化 (2): ビジネスモデル					
	7	深層学習の最新の技術動向 (2): ビジネス環境を変化させる技術を取り上げる					
	8	企業における情報活用 (1): 製造業、商品サポート業務					
	9	企業における情報活用 (2): 情報公開、サービス業					
	10	企業における情報活用 (3): その他の業種、企業内での活用					
	11	企業における情報活用 (4): 情報共有、基幹業務、eラーニング					
	12	深層学習の最新の技術動向 (3): 企業で活用される技術を取り上げる					
	13	ミニ総合演習 (1): 演習の進め方の説明とグループ分け、グループ作業 (問題の発見または選択)					
	14	ミニ総合演習 (2): グループ作業 (解決策と用いる情報技術の検討、ビジネス企画の立案)					
	15	ミニ総合演習 (3): 企画内容の発表と相互評価					
授業外学修 (事前学修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業でとりあげる教科書の該当部分に軽く目を通しておく (毎週 1 時間程度)</li> <li>● 解説当番になった場合は、教室で説明できるレベルまで理解し、説明の準備をする (1 5 時間程度)</li> <li>● ミニ総合演習では授業外でのグループ作業を適宜行う (1 5 時間程度)</li> </ul>						
授業外学修 (事後学修)	● 毎回の授業後に短いレポート (自分が考えたことを中心にまとめたもの) を提出 (毎週 1 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	● 討議、質問など授業への積極的な関与					25%	①③
	● 解説当番時の解説の分かりやすさ、正確さ					25%	①②
	● 毎回の短いレポート (自分でちゃんと考えているか)					25%	③④
● ミニ総合演習での企画内容の質(ビジネスとして通用しそうか)					25%	①②③④	
成績評価基準	秀: (評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優: (評点 80 点~89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良: (評点 70 点~79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可: (評点 60 点~69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可: (評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	駒谷昇一・辰己丈夫 『情報と職業 (改訂 2 版)』 オーム社 2015 年						
参考文献	情報技術は日進月歩であり 2015 年改訂の教科書も最新状況は反映されていない。これを補うため、毎週発行される英文ニュースレター <a href="https://read.deeplearning.ai/the-batch/">https://read.deeplearning.ai/the-batch/</a> を参考資料として活用する。英語が苦手な人も心配無用。深層学習の成果の一つである自動翻訳がほぼ完璧な日本語に訳してくれる。自動翻訳サイトの例: <a href="https://www.deepl.com/translator">https://www.deepl.com/translator</a>						
その他	どんな学生の受講が望ましいか: 高校の教科「情報」の免許を取得したい。情報化社会とビジネスの関係について勉強したい。情報技術の中でも特に進歩が速く社会に与えるインパクトが大きい最新の深層学習技術に興味がある。議論を通じて思考を深める力をつけたい。社会を変えていく側の人になりたい。						